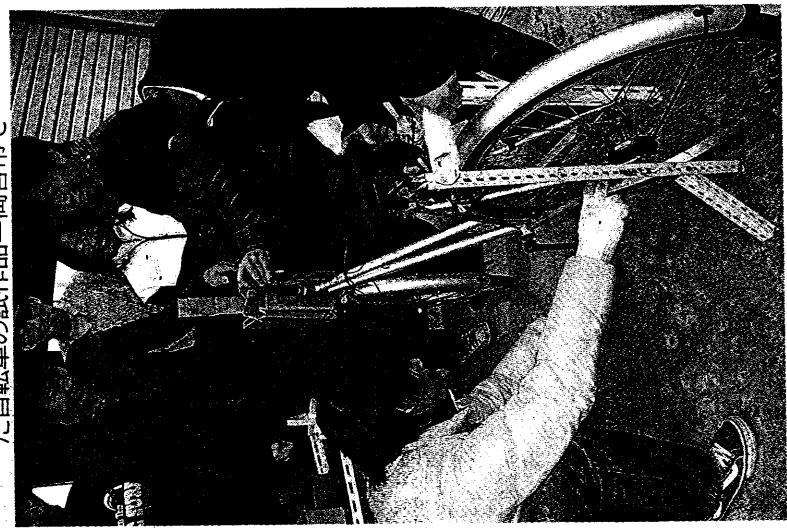


学生らがアイデアを出して作った自転車の試作品＝岡谷市で



## 月内に試作品完成

盆地で土地が平たんなりを研究する京大の喜多一教授(四七)が「薄型自転車」を研究する。特に京都大では駐輪場に自転車が押し込められ出せないことがあるという。利用者視点のものづく

諏訪地方の製造業と連携することになった。参加したのは京大や信州大、諏訪理工大の学生や院生ら約十人と同センターのメンバーら。六日から八日まで泊まり込みで、岡谷市のコトテネット会社

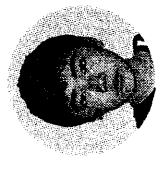
産学協同を進める諏訪地方のシンクタンク「諏訪産業集積研究センター」が、狭い場所にも止められる「薄型」自転車の製作に取り組んでいる。京都からの要望を受けての開発で、学生や地元企業とで月内に試作品を完成させる。同センターは「ニーズに応えられる人材育成につなげたい」と期待する。(自名正和)

# 京都の街に薄型自転車

# 南信

### 私の夢

松川町松川北小4年 前島大地 ぼくは機械をこぞするのが好きです。機械はきけんなものもあれば、便利なものもあります。ぼくは



商店街などで電化せいで品をばん売したりしめう理したりして、みんなが明るく楽しくらせて、温たん化もできるかきり防ぎたい。

## 諏訪産業集積研究センター 大学生らと合同開発

「インタスアリーネットワーク」で作業した。

幅がある前がは左右から折り畳み、ハンドルは九〇度回転し縦に。片側スタンドを両側のものに差して、ペダルは上下に折り畳めるようにする。段ボールや鉄棒で大きなイメージを形にし、「ワイヤで連動させワンタッチで動かしたい」などと意見を重ねた。

イ社の社長で同センター副会長の大橋俊夫さん(五七)は「諏訪にはものづくり技術があるが、これからは必要な物を作ることが重要。人材育成につなげたい」と取り組みの意義を説明する。

月内には企業に依頼し、本格的な試作品を完成させる。量産化のめどはないが、喜多教授は「機会とともに発表した」と話した。

